ワオ高等学校 2021(令和3)年度 自己点検・評価報告書

① 学校の概要

ワオ高等学校は、2020(令和2)年12月に学校法人ワオ未来学園を創立し、2021(令和3)年4月にオンラインハイスクールとして岡山県岡山市に新規開校した広域通信制高校である。「豊かな教養と正しい心をもって自らの幸福を求め、社会に貢献する人を育てる」ことを使命とし、従来の偏差値偏重から脱却した新たな価値観を生む教育を目指している。この使命に基づき、学校設置科目の「教養探究」で哲学・科学・経済を必修とし、対話を中心とした新しい学びを展開している。

令和3年度は1期生となる約40人を全国から受け入れ、学校運営をスタートした。全生徒がオンラインで学ぶ共通コースを基本に、多数のオプションプログラムを開講。高校在学中の正規留学とオーストラリアの高卒資格を目指す高校留学ダブルディプロマプログラム、海外大学進学支援プログラム、起業家精神を学ぶアントレプレナー養成プログラム、AIやデータサイエンスを実践的に学ぶデータサイエンティスト養成プログラムを提供し、留学・データサイエンス・アントレプレナーの専門家とタッグを組んだ教育を実施した。

開校1年目の学校として、生徒や保護者の意見を積極的に取り入れながら、教育体制の充実に取り組んでいる。

② 2021(令和3)年度の概要

1学年のみでスタートした令和3年度は、新型コロナウイルス禍の中で手探りの学校運営となったが、学内外の多様な人材とタイアップしてオンラインでの特別活動を充実させた。教養探究のオンライン授業を初実施し、ワオ高らしさの基礎を築く1年となった。

(1) 初の教養探究授業

本校必修科目として設置している教養探究を後期日程から開講。令和3年度に開講したのは経済探究と自然科学探究で、メディア学習による自学自習に加え、zoomを活用したオンライン対話授業を実施した。経済探究では、お金の持つ価値や未来の通貨はどうなっていくかなど、実際の経済に即した話題を取り上げた。自然科学探究では、生命や宇宙をテーマにした問いに考えをめぐらせ対話をオンラインでのグループ対話を展開した。教養探究に興味関心をもって入学した生徒が多く、本校の特長となる「学び合い」の場をつくる一歩となった。

(2) 多彩な特別活動を展開

本校に在籍する非常勤職員やオプションプログラムで関係性があるプロフェッショナルの協力を得て、全校生徒に向けてオンラインで完結するさまざまな特別活動を提供した。本校のスクールカウンセラーが「心の授業—WEL—」を行い、生徒が自身の心に向き合い心を鍛えるプログラムに取り組んだ。本校のキャリアカウンセラーと共に将来について考える授業も実施。平和のためにできることを考える活動

やプレゼンテーション力を鍛える特別活動も行った。コロナ禍で外出にも制限が加わる中で、オンラインによる利点を活かして高校生活の充実を図った。

(3) 初のスクーリングを実施

前期・後期で1回ずつのスクーリングを実施。一斉授業や実習を中心とした授業を展開した。通信制高校は進路が決まらず卒業する生徒が多いという社会課題があり、本校ではスクーリング時に直接顔を合わせるタイミングで手厚い進路指導を実施することで、1年生のうちから進路を意識した学習に取り組めるようにしている。

(4) 「全国高校AIアスリート選手権大会シンギュラリティバトルクエスト2021」に出場

データサイエンティスト養成プログラムを受講している生徒が「全国高校AIアスリート選手権大会シンギュラリティバトルクエスト2021」に出場し、全国3位、4位に入る好成績を残した。出場生徒は高校入学後にプログラミングやAIについて本格的に学んだ生徒であり、本校提供プログラムの充実度を全国に知らしめる結果となった。

③ 自己点検・評価の総評と課題

本校は、数年間の準備期間を経て令和3年度の開校を果たした。その際、学校関係諸法令を遵守して学校運営を行うべく、教員配置や制度設計、教育ツールの整備、オンライン環境の整備などに取り組んできた。

初年度は1学年のみ、生徒数も十分とはいえない状況でのスタートであり、生徒や保護者もまだオンラインツールに十分慣れていなかったこともあり、さまざまな課題が生じた。ITツールの積極的な利活用に加え、外部講師との協力などを拡大させ、一つずつ課題解決につなげた。

今後、本校が目指す教育効果を十分に十分にあげていくためには、生徒数を十分に増やしつつ、オンラインでの学習の基盤を整備し、生徒と教職員の交流機会を積極的に増やしていくことが重要といえる。設備面、制度面のハード面に加え、教職員側のスキルアップといったソフト面での改善に力を入れていく。

(1) 評価項目と基準の設定について

高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン等を参考に、評価項目と基準を設定している。

(2) 評価について

A～Cの3段階で評価する。

A：評価基準を十分に満たしている

B：評価基準を満たしているがより改善の余地がある

C：評価基準を満たしていない

※自己評価の各項目と評価基準に対する詳しい評価結果は、別表を参照。

④ 学校関係者評価

学校関係者評価として、生徒、保護者に対しアンケートを実施している。開校したばかりの1期生として、さまざまな制度を生徒・保護者と共につくりあげていく中で、8割近い生徒・保護者が「とても満足」「少し満足」と回答した。中でも、教養探究などワオ高校独自の学びについては、生徒の8割超、保護者の9割超が「将来に役立つ」と回答するなど、高い期待が寄せられていることが分かる。

一方で、コロナ禍の中でスタートしたオンラインでの学びについては、制度そのものを含めて模索を続けているところであり、今後も環境整備や教職員の意識改革などを通じて改善を図っていく。

	生徒	保護者
学校への満足度	79.9%	76.0%
ワオ高の学びは将来に役立つと思う	84.8%	92.0%

生徒・保護者アンケートの詳しい結果は別表を参照。